

この電子化された添付文書をよく読んでから使用してください。

体外診断用医薬品

**2025年 5月改訂(第3版)

*2021年 5月改訂(第2版)

製造販売承認番号: 22000AMX02411000

コバス システム

B型肝炎ウイルス表面抗原キット

エクルーシス試薬 HBsAg II

【重要な基本的注意】

B型肝炎ウイルス(HBV)感染の診断は、ほかの免疫測定法などと同じく、本製品による陽性又は陰性の検査結果のみにより行わず、HBc 抗体測定、HBV-DNA 定量検査など、ほかの検査結果及び臨床経過を考慮して総合的に判断してください。特に下記の場合は使用方法に留意してください。

1. 健康診断時のスクリーニング検査

できるだけ検出感度の高い EIA 法/化学発光法などを用いた検出試薬を使用し、イムノクロマト法や凝集法で検出感度の低い検出試薬の使用にあたっては、じゅうぶんに留意してください。

2. 緊急検査

緊急対応として実施される迅速・簡便な検出試薬において、陰性と判定された場合でも、必要に応じてさらに検出感度の高い検出試薬で再検査をすることをお奨めします。

3. B型肝炎と診断された患者の経過観察検査

EIA 法/化学発光法、凝集法、イムノクロマト法などいずれの方法を用いた検出試薬でも使用できますが、陰性化した場合はより検出感度の高い検査方法で確認することを推奨します。

注意) HBV 感染直後はウイルス量が極めて少なく、どのような高感度の検出試薬を用いてもウイルスを確認できません。この時期は「ウインドウ(空白)期間」と呼ばれており、ウインドウ期間に採取された血液では、HBs 抗原は必ず検出されるとは限りません。

【全般的な注意】

- 本品は体外診断用であり、それ以外の目的には使用しないでください。
- 測定結果に基づく臨床診断は、臨床症状やほかの検査結果などと併せて、担当医師が総合的に判断してください。
- **3. 電子化された添付文書に記載された使用目的及び用法・用量に従って使用してください。記載された使用目的及び用法・用量以外での使用については、測定結果の信頼性を保証しかねます。
- *4. 構成試薬(Cal1 及び Cal2)はヒト血液由来成分を含みます。HBs 抗原(Cal2 は除く)、抗 HIV 抗体及び抗 HCV 抗体の陰性が確認されています。また、HBs 抗原を含有している Cal2 は β -プロピオラクトン及び紫外線照射により不活性化されています。しかし、不活性化または試験方法によって感染のリスクを完全かつ確実に排除することはできないため、感染性があるものとして検体と同様、取扱いには十分に注意してください。
- **5. 使用する機器の電子化された添付文書及び取扱説明書をよく読み、記載に従って使用してください。

【形状・構造等(キットの構成)】

1. エクルーシス試薬 HBsAg II

構成試薬/キャップの色

MP 液(M)/無色

ストレプトアビジンコーティング磁性マイクロパーティクル

(SA 磁性 MP)

試液 1(R1)/灰色

ビオチン化抗 HBs マウスモノクローナル抗体 1

(ビオチン化抗 HBs 抗体 1)

ビオチン化抗 HBs マウスモノクローナル抗体 2

(ビオチン化抗 HBs 抗体 2)

試液 2(R2)/黒

トリス(2,2'-ビピリジル)ルテニウム(II)標識抗 HBs マウスモノクローナル抗体

(Ru(bpy)₃ 標識抗 HBs 抗体 1)

トリス(2,2'-ビピリジル)ルテニウム(II)標識抗 HBs ヒソジポリクローナル抗体

(Ru(bpy)₃ 標識抗 HBs 抗体 2)

Cal1/白^{*1}

Cal2/黒^{*1}

<付属品>

ボトルラベル

2. エクルーシス試薬 プロセル(別売)

構成試薬/キャップの色

プロセル/白

トリプロピルアミン

注意) 1. 2.は組み合わせて使用してください。

※1 ヒト血液由来成分を含みます。詳細は【全般的な注意】の項及び【使用上又は取扱い上の注意】の項「1.取扱い上(危険防止)の注意」を参照してください。

【使用目的】

血清又は血漿中の HBs 抗原の検出(B型肝炎ウイルス(HBV)感染症の診断の補助)

【測定原理】

本キットは、血清又は血漿中の HBs 抗原を検出するもので、電気化学発光免疫測定法(ECLIA)を測定原理としています¹⁾。第1反応として検体、試液 1(ビオチン化抗 HBs 抗体 1 及びビオチン化抗 HBs 抗体 2)及び試液 2(Ru(bpy)₃ 標識抗 HBs 抗体 1 及び Ru(bpy)₃ 標識抗 HBs 抗体 2)を加えインキュベーションします。第2反応として MP 液(SA 磁性 MP)を加えインキュベーションします。反応混合液を測定セルに吸引し、磁力により SA 磁性 MP を電極に引き付けます。次にプロセル(トリプロピルアミン)を吸引し、未反応物を除去します(B/F 分離)。SA 磁性 MP に結合している Ru(bpy)₃ 標識抗 HBs 抗体 1、2 の Ru(bpy)₃ は、電極への荷電による酸化と、トリプロピルアミンでの還元反応により励起発光を繰り返すので、所定時間での発光強度を光電子増倍管で測定します。同様の操作をしたキャリブレーション(Cal1 及び Cal2)の発光強度から、カットオフ値を計算し、検体による発光強度と比較することにより HBs 抗原の陽性、陰性を判定します。

【操作上の注意】

**1. 測定試料の性質、採取法

測定試料: 血清又は血漿(ヘパリン、EDTA、クエン酸)

測定試料の安定性: 20℃~25℃で 7 日間

2~8℃で 14 日間、

-20℃(±5℃)で 6 ヶ月間安定

(凍結融解は 6 回まで)

採血管の種類によっては、測定結果に影響を及ぼす場合がありますので使用する採血管の製造元の指示に従ってください。

沈殿物のある検体は、使用前に遠心操作を行ってください。また、加熱した検体は使用しないでください。

アジ化ナトリウムを含有する検体やコントロールは、測定に使用し

ないでください。

蒸発による測定への影響を回避するため、機器に設置した検体及びキャリブレーションは2時間以内に測定してください。

血清、血漿以外の体液での測定は確立されていません。

2. 妨害物質・妨害薬剤

- ** (1) 下表の各濃度までは陽性・陰性の判定への影響はありませんでした。さらに、下表のビオチン濃度までは測定に与える影響は以下の範囲内でした。
カットオフインデックス(COI) < 0.7 の検体: COI + 0.3 以内
COI ≥ 0.7 の検体: 80 ~ 140% 以内

物質	濃度
黄疸 (ビリルビン)	40 mg/dL
溶血 (ヘモグロビン)	2,000 mg/dL
乳び (イントラリビッド)	2,000 mg/dL
ビオチン(ビタミン B ₇)	1,200 ng/mL
リウマチ因子	6,210 IU/mL
IgG	3,817 mg/dL
IgA	3,250 mg/dL
IgM	3,678 mg/dL

- (2) HBsAg 濃度 1,500,000 IU/mL までは、プロゾーン現象による偽陰性は認められません。

- ** (3) 21 種の成分についての影響を in-vitro 試験で確認したところ、影響は認められませんでした。
(4) イムノアッセイでは、非特異反応物質が存在した場合、得られた結果に対して、非特異的反応を完全に否定できない場合があります。

3. その他

本試薬は以下の機器に適用できます。

卓上型機器	コバス e 411 など
据置型機器	コバス 6000(免疫処理用 e 601 モジュール) コバス 8000(免疫処理用 e 602 モジュール) など

そのほかの適用可能な機器については弊社までお問い合わせください。

【用法・用量(操作方法)】

1. 試薬の調製方法

(1) エクルーシス試薬 HBsAg II

- 1) 試薬パック(MP 液、試液 1 及び試液 2)

そのままご使用ください。

- 2) キャリブレーション(Cal1 及び Cal2)

- a. 卓上型機器:
調製不要です。そのまま使用します。
b. 据置型機器:

ア) キャップをした状態で泡立てないように穏やかに混和し、キャップを開け、エクルーシスキャリバイアル(別売)に適量を小分け分注します。この時、キャリブレーション容器を間違えないように注意してください。
Cal1 → 白キャップのキャリブレーション容器
Cal2 → 黒キャップのキャリブレーション容器

- *イ) 添付のボトルラベルを容器に貼ります。この際、使用する機器及び各濃度域にあったラベルを貼ってください。直ちに使用しないキャリブレーションは速やかに冷蔵保存(2 ~ 8℃)してください。キャップの裏側に試薬が付着しないように垂直の状態での保存、使用してください。

- (2) エクルーシス試薬 プロセル(別売)

そのままご使用ください。

2. 試薬の安定性

(1) エクルーシス試薬 HBsAg II

- 1) 試薬パック(MP 液、試液 1 及び試液 2)

未開封時: 2 ~ 8℃で使用期限まで安定

開封後: 2 ~ 8℃で 8 週間安定

(使用を開始してから安定性)

機器上: 4 週間安定

*使用後、冷蔵(2 ~ 8℃)保存する場合は、6 週間安定です。この場合、機器上(20 ~ 25℃)での合計時間は 42 時間までです。

- 2) キャリブレーション(Cal1 及び Cal2)

未開封時: 2 ~ 8℃で使用期限まで安定

開封後: 2 ~ 8℃で 8 週間安定

(使用を開始してから安定性)

機器上:

- a. 卓上型機器の場合: 20 ~ 25℃で合計 5 時間以内
b. 据置型機器の場合: 1 回のみ使用可能

(2) エクルーシス試薬 プロセル(別売)

未開封時: 15 ~ 25℃で使用期限まで安定

機器上:

- 1) エクルーシス試薬 プロセルの場合:

キャップを開けた状態で 3 日間、

キャップを閉めた状態で 4 週間安定

- 2) エクルーシス試薬 プロセル M の場合:

5 日間安定

**3. 別途必要な器具・器材・試薬

・コバス 6000(免疫処理用 e 601 モジュール)、コバス 8000(免疫処理用 e 602 モジュール)など、そのほかの適用可能な機器については弊社までお問い合わせください。

・エクルーシス プレチコントロール HBsAg II

・エクルーシス クリーンセル

・エクルーシス シスウォッシュ

・エクルーシス 2010 分注チップ

・エクルーシス 2010 アッセイカップ

・エクルーシス 2010 クリーンライナー

・エクルーシス クリーンセル M

・エクルーシス プレクリーン M

・エクルーシス ブローブウォッシュ M

・エクルーシス アッセイカップ/チップ M

・エクルーシス クリーンライナー M

・エクルーシス PC/CC カップ M

・エクルーシス キャリバイアル

・HBsAg 吸収用試薬セット

機種により使用する製品が異なりますので、ご不明な点などがございましたら弊社までお問い合わせください。

4. 操作方法

(1) 測定準備

- 1) エクルーシス試薬 HBsAg II

- a. 機器への試薬パックの設置

機器の試薬ディスクの空いているポジションに試薬パックをセットします。

使用する前日に機器にセットすることをお勧めします。

試薬は泡立てないでください。

キャップの開閉は、機器が自動的に行います

*使用後は、そのまま機器の試薬ディスク内に保存するか、2 ~ 8℃に戻してください。

- b. 機器への測定試料の設置

所定の位置に検体をセットします。

機器への設置方法の詳細は、機器の取扱説明書を参照してください。

- c. キャリブレーション

本試薬に使用するマスターキャリブレーション

データは、試薬パックの 2D バーコードラベル及び電子配信されるキャリブレーション情報に記録されています。マスターキャリブレーションデータを各機器の状態に適合させるために、キャリブレーションを行います。

このキャリブレーションには、キャリブレータ(Cal1 及び Cal2)を使用します。

ア) キャリブレータを冷蔵庫から出し、20～25℃に戻します。

キャップをした状態で、泡立てないように穏やかに混和し、キャップを開け、Cal1、Cal2 が連続して測定されるように機器にセットします。その際、キャップの裏への試薬の付着に注意してください。付着している場合は取り除いてください。

イ) 卓上型機器:

*サンプリング終了後のキャリブレータは、速やかに 2～8℃に戻します。キャリブレータ 1 本につき 5 回まで測定可能です。

据置型機器:

サンプリング終了後のキャリブレータは、廃棄してください。小分け分注したキャリブレータ 1 本につき 1 回のみ測定可能です。

ウ) 新しいロットの試薬を使用する場合、機器に設置してから 24 時間以内の新しい試薬パックを用いて、必ずキャリブレーションを行ってください。このキャリブレーションデータが、同一ロットの試薬パックに使用されるキャリブレーション(L-Cal)として、機器に記録されます。

エ) 推奨するキャリブレーションの測定・更新頻度は、以下のとおりです。しかしながら、精度管理などで必要が生じた場合は、必ずキャリブレーションを行ってください。

*1 つの試薬パックを 7 日間で使いきる場合:
上記 L-Cal は、1 カ月間(28 日間)有効です。この間キャリブレーションは不要です。ただし同一ロット内でも、1 カ月に 1 度 L-Cal を更新してください。

*1 つの試薬パックを 7 日間を超えて使用する場合:
7 日間に 1 度その試薬パックでキャリブレーションしてください。その際のキャリブレーションデータは、その試薬パックにのみ有効なキャリブレーション(R-Cal)として、機器に記録されます。

キャリブレーション実施後は、必ずコントロール試料を測定し、精度管理を行ってから検体測定を行ってください。

2) エクルーシス試薬 プロセル(別売)

機器への設置方法の詳細は、機器の取扱説明書を参照してください。

- エクルーシス試薬 プロセル/プロセル M 共通**
測定する 1 時間以上前に、機器に設置します(泡立てないでください)。
- エクルーシス試薬 プロセルをご使用の場合**
以下の点にご留意ください。
測定前にキャップを開けます。
測定後、あるいは 3 時間以上使用しない場合はキャップを閉めます。

(2) 測定(サンドイッチ法)

- 第 1 反応:検体、試液 1(ビオチン化抗 HBs 抗体 1 及びビオチン化抗 HBs 抗体 2)及び試液 2(Ru(bpy)₃ 標識抗

HBs 抗体 1 及び Ru(bpy)₃ 標識抗 HBs 抗体 2)を加え反応させます。

- 第 2 反応:MP 液(SA 磁性 MP)を加え反応させます。
- 反応混合液を測定セルに吸引し、磁力により SA 磁性 MP を電極に引き付けます。
- プロセル(トリプロピルアミン)を吸引し、未反応物を除去します(B/F 分離)。SA 磁性 MP に結合している Ru(bpy)₃ 標識抗 HBs 抗体 1、2 の Ru(bpy)₃ は、電極への荷電による酸化と、トリプロピルアミンでの還元反応により励起発光を繰り返します。所定時間での発光強度を光電子増倍管で測定します。
- 同様の操作をしたキャリブレータ(Cal1 及び Cal2)の発光強度から、カットオフ値を計算し、検体による発光強度と比較することにより HBs 抗原の陽性、陰性を判定します。

例) 操作概略(コバス e 411 の場合)

第 1 反応

検体(50 μL)、試液 1(60 μL)及び試液 2(50 μL)を分注

37℃でインキュベーション

第 2 反応

← MP 液(40 μL)

37℃でインキュベーションを行い、
反応液を測定セルに吸引

← プロセル

B/F 分離

判定(光電子増倍管)

測定時間 18 分

5. 精度管理

精度管理には、エクルーシス プレチコントロール HBsAg II (別売)をご使用ください。

精度管理は少なくとも 24 時間に 1 回の実施を推奨しています。コントロールの測定値が許容範囲内にあることを確認してから検体測定を行ってください。

【測定結果の判定法】

1. カットオフ値の算出法

カットオフ値

$$= 0.175 \times \text{Cal1 の発光強度} + 0.0396 \times \text{Cal2 の発光強度}$$

**2. 測定結果の判定法

検体の発光強度をカットオフ値で除して得られたカットオフインデックス(COI)より、以下のように判定します。

- COI が 0.9 未満の場合は、陰性と判定します。
- COI が 0.9 以上 1.0 未満の場合は判定保留とします。
- COI が 1.0 以上の場合は、陽性と判定します。

**3. 確認試験

陽性又は判定保留の結果を得た場合は、2 重測定により再測定を推奨します。再測定の結果、得られた COI が 2 回とも 0.9 未満の場合は陰性と判定します。一方、2 重測定のうち 1 回でも COI が 0.9 以上となった場合は、陽性と判定します。陽性の検体は、HBs 抗原の吸収による確認試験^{**2}により、特異的な反応を確認することができます。確認試験において中和が確認された場合は確認試験陽性と判定します。

※2 HBsAg 吸収用試薬セット(別売)を使用します。

【性能】

1. 性能

【用法・用量(操作方法)】の記載に従い、感度・正確性・同時再現性の各試験を行った場合、下記の規格値に適合します。

(1) 感度試験

- HBs 抗原濃度 0 IU/mL の試料(Cal1)を操作するとき、発光強度は 600～1,700 Counts の範囲内にあります。
- カットオフインデックス※4 が 5～20 に調製された試料(Cal2)を操作するとき、発光強度は 3,000～11,000 Counts の範囲内にあります。

※4 カットオフインデックス
＝試料の発光強度/カットオフ値

(2) 正確性試験

- HBs 抗原陰性の管理用血清を試料として操作するとき、発光強度はカットオフ値※5 未満を示し陰性と判定されます。
- HBs 抗原陽性の管理用血清を試料として操作するとき、発光強度はカットオフ値※5 以上を示し陽性と判定されます。

※5 カットオフ値
＝0.175×(Cal1 の発光強度)+0.0396×(Cal2 の発光強度)

(3) 同時再現性試験

同一検体を 3 回同時に測定するとき、その判定結果は同一です。

** (4) 最小検出感度

分析感度: < 0.1 IU/mL

本品の校正用基準物質は WHO Reference Standard 00/588 ですが、参考として WHO Reference Standard 12/226 での最小検出感度を以下に示します。

WHO Reference Standard 12/226 の連続希釈系列を本品の 3 ロットで測定し、本品の分析感度を検討した結果、各ロットでの COI 0.9 に相当する濃度は 0.027 IU/mL、0.027 IU/mL、0.030 IU/mL でした。

2. 相関性試験成績

- 本品と既承認品(自社、ECLIA 法)との相関性を検討したところ、197 例の血清検体において良好な相関性が得られました²⁾。

本 品		既承認品	
		陽性	陰性
本 品	陽性	120	0
	陰性	0	77

一致率:100%

- 本品と既承認品(他社、化学発光法)との相関性を検討したところ、197 例の血清検体において良好な相関性が得られました²⁾。

本 品		既承認品	
		陽性	陰性
本 品	陽性	120	0
	陰性	0	77

一致率:100%

3. 校正用基準物質

WHO Reference Standard 00/588

【使用上又は取扱い上の注意】

1. 取扱い上(危険防止)の注意

- 検体及び本品の取扱いには、使い捨て手袋、実験着などの保護衣及び保護用眼鏡を着用するなど、人体に直接触れないように注意してください。また、測定終了後はよく手を洗ってください。
- 試薬が誤って目や口に入った場合には、直ちに水でじゅうぶんに洗い流すなどの応急処置を行い、必要があれば医師の手当てなどを受けてください。
- 試薬が誤って皮膚及び粘膜に付着した場合には、直ちに大量の水で洗い流してください。
- 試薬(MP 液、試液 1 及び試液 2)をこぼした場合には水で希釈してから拭き取ってください。

- 検体又はヒト血液由来成分を含む構成試薬(Cal1 及び Cal2)をこぼした場合は、次亜塩素酸剤(有効塩素濃度 1,000 ppm、0.1%)などの消毒液を使用してじゅうぶんに拭き取ってください。なお、拭き取る際には、ゴム製の手袋などにより手を保護してください。

- 検体及び本品を取り扱う場所では飲食又は喫煙をしないでください。

- 検体及びヒト血液由来成分を含む構成試薬(Cal1 及び Cal2)は HIV、HBV、HCV などのウイルスによる感染の危険性があるものとして取り扱い、検体又は検査に使用した器具類は高圧蒸気滅菌器を用いて 121℃で 20 分以上加熱滅菌処理をするか、次亜塩素酸剤(有効塩素濃度 1,000 ppm、0.1%)に 1 時間以上浸すなどにより消毒してください。これらの作業中は、じゅうぶんに換気を行ってください。

- 本品にはアレルギー反応を起こすおそれがある 2-メチルイソチアゾール-3(2H)-オン・塩酸塩が含まれていますので、取扱いにはじゅうぶんに注意してください。

2. 使用上の注意

- 試薬及び消耗品は専用のものを使用し、その容器・付属品などはほかの目的に転用しないでください。
- 試薬は必ず貯蔵方法に従って保存し、凍結させるなど指定の条件以外で保存したものや使用期限を過ぎたものは使用しないでください。
- ロットの異なる試薬又は残った試薬を混ぜ合わせて使用しないでください。
- 試薬パックは使用する前に、恒温槽(Water bath など)に浸けたりしないでください。
- バーコードをぬらしたり、ペンで記入するなどして汚したりしないでください。
- 測定の前はすべての試薬と測定試料中の気泡の有無を確認してください。気泡がある場合は除いてください。
- すべての試薬は保存又は反応中に強い光を当てないでください。
- すべての試薬は開封又は分注時に微生物の汚染を避けてください。
- 測定系及び洗浄液の調製には必ず精製水を使用し、水道水は用いないでください。
- 検体は使用前に 20～25℃に戻し、よく混和してください。ただし、激しく振り混ぜたり、泡立てたりしないでください。

- コバス 6000(免疫処理用 e 601 モジュール)、コバス 8000 e シリーズなどの据置型機器をご使用で、HBsAg II と Anti-HBs を同一機器で測定する場合、モニター上のユーティリティジョブのキャリアオーバー画面で、以下の表に従い、HBsAg II を含む全ての項目間及び、Anti-HBs と HBsAg II の測定間に「洗浄実行」の設定を行ってください。

影響を与える		影響を受ける			
項目名	Step	項目名	Step0	Step1	Step2
HBsAg II	1	HBsAg II	×	×	×
HBsAg II	1	全ての項目	×	×	×
Anti-HBs II	1	全ての項目	-	×	×

- 本品を保存及び使用する際は、キャップの裏に試薬を付けないように、垂直の状態で保存及び使用してください。

- 添付のボトルラベルは、ロット指定になっています。別ロットには使用しないでください。

- 構成試薬のうちプロセスは、個別に包装されていますので、組み合わせて使用してください。

3. 廃棄上の注意

- 測定により生じた廃液については、検体などと同様に滅菌又は消毒の処理を行ってください。また、これらを廃棄する場合には、各都道府県によって定められた規定に従ってください。
- 使用後の容器を廃棄する場合には、廃棄物に関する規定

に従って医療廃棄物又は産業廃棄物など区別して処理してください。

- (3) 廃棄する際は、水質汚濁防止法等の規制に留意して処理してください。
- (4) 検体又は構成試薬をこぼした場合は、次亜塩素酸剤(有効塩素濃度 1,000 ppm、0.1%)などの消毒液を使用してじゅうぶんに拭き取ってください。なお、拭き取る際には、ゴム製の手袋などにより手を保護してください。
- (5) プロセル(別売)を原液のまま廃棄する場合は強アルカリ溶液(エクレーシス クリーンセル)と混合しないでください。

4. その他の注意

- (1) 本品による測定値は既存製品と高い相関性を示しますが、系統的な誤差を生じる場合がありますので、必要に応じて相関性について検討されることをお勧めします。

※(2) 死亡後検体の測定を行う場合は、弊社までご連絡ください。

【貯蔵方法・有効期間】

1. 貯蔵方法

- (1) **エクレーシス試薬 HBsAg II**
2～8℃で保存してください(凍結は避けてください)。
製品を倒さないでください。
- (2) **エクレーシス試薬 プロセル(別売)**
15～25℃で保存してください(凍結は避けてください)。
製品を倒さないでください。

2. 有効期間

- ※(1) **エクレーシス試薬 HBsAg II**
24 ヶ月
使用期限(Exp.)は外箱に記載してあります。
- (2) **エクレーシス試薬 プロセル(別売)**
24 ヶ月
使用期限(Exp.)は外箱に記載してあります。

【包装単位】

エクレーシス試薬 HBsAg II 100 テスト

MP 液(M) 1×6.5 mL
試液 1(R1) 1×8 mL
試液 2(R2) 1×7 mL
Cal1 2×1.3 mL
Cal2 2×1.3 mL

< 付属品 >

ボトルラベル Cal1 及び Cal2 用

エクレーシス試薬 HBsAg II (200) 200 テスト

MP 液(M) 1×12 mL
試液 1(R1) 1×14 mL
試液 2(R2) 1×12 mL
Cal1 1×1.3 mL
Cal2 1×1.3 mL

< 付属品 >

ボトルラベル Cal1 及び Cal2 用

エクレーシス試薬 HBsAg II 5×100 テスト

MP 液(M) 1×6.5 mL×5
試液 1 (R1) 1×8 mL×5
試液 2 (R2) 1×7 mL×5
Cal1 2×1.3 mL×5
Cal2 2×1.3 mL×5

< 付属品 >

ボトルラベル Cal1 及び Cal2 用

エクレーシス試薬 プロセル(別売)※6

プロセル 6×380 mL

エクレーシス試薬 プロセル M(別売)※6

プロセル 1×2L 又は 2×2L

※6 使用する機器に合わせてエクレーシス試薬 プロセル又はエクレーシス試薬 プロセル M をご使用ください。ご不明な点などがございましたら弊社までお問い合わせください。

※【主要文献】

- 1) Blackburn, G.F. et al. Electrochemiluminescence Detection for Development of Immunoassays and DNA Probe Assays for Clinical Diagnostics. Clin.Chem. 1991, 37(9), p.1,534～1,539.
- 2) 自社データ

【問い合わせ先】

ロシュ・ダイアグノスティクス株式会社
カスタマーソリューションセンター
〒108-0075 東京都港区港南 1-2-70
フリーダイヤル:0120-600-152

【製造販売業者の氏名又は名称及び住所等】

ロシュ・ダイアグノスティクス株式会社
〒108-0075 東京都港区港南 1-2-70
フリーダイヤル:0120-600-152

コバス、エクレーシス及び ELECSYS は Roche の登録商標です。
その他の全ての製品名及び商標は、各所有者に帰属します。

